

令和3年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和4年3月1日
市立札幌大通高等学校

本校の重点目標

- (1) 自己を高め、目標に向かって、自己実現を図ることができる生徒を育てる。
- (2) 意欲・熱意を持って主体的に学習し、興味・関心を深く探究する生徒を育てる。
- (3) 主体的に自己の生き方や進路について探究し、様々な困難を乗り越える逞しい生徒を育てる。
- (4) 規範意識を身につけ、勤労を尊ぶ、有為な社会人として自立していける生徒を育てる。
- (5) 多様な価値観を受容し、他者を認める寛容な心を持ち、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる。

本校の経営方針

- 教職員は情熱を持ち、信頼される教育者としての使命を自覚し、各種研鑽に努めるとともに、次のことを考慮した経営体制を整える。
- (1) ガイダンス機能を充実させ、HR複数担任制や小グループ担任制をとる。
 - (2) スクールカウンセラーの配置と各種相談体制を整える。
 - (3) インターシップ等を積極的に導入する。
 - (4) 学校行事・部活動等は、三部合同を基本とし、共通の活動時間を確保する。
 - (5) 教育関連施設や家庭・地域等と連携し、双方向の協力体制を確立する。

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総合	・大通高校に入学する前と比べて、安心して学校生活を送ることができている。 ・高校入学前と比べて、友人関係の広がりや活動の変化、人間的な成長を感じる。	A	「安心して学校生活を送ることができている」の回答は生徒83%、保護者90%であった。生徒・保護者の回答は、昨年度（生徒82%・保護者90%）と比べ大きな変化はない。さらに、一昨年度（生徒88%・保護者91%）と比べ、生徒の回答が5%低くなった。また、今年度の生徒の回答のうち17%が学校生活への安心感が満たされていないと読み取れる。「入学する前と比べて友人関係が広がった」の生徒の回答は67%、「入学する前と比べて活動的になったと思う」の保護者の回答は75%であった。 コロナ禍により登校できなかったことへの様々な不安の影響も想定されるが、コロナ禍以外の要因も検討し、生徒への個別面談の方法や、不安や悩みを抱えた生徒への寄り添いなどにおいて、より安心感を高める方策を検討し、家庭や校外機関と連携した支援の在り方について、次年度への取組に引き継いでいきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見		・生徒の不安に対して、家庭と連携して支援するとあるが、家庭機能が脆弱な世帯ほどコロナ禍の影響が増幅している傾向がある。連携が難しい家庭こそ注視してもらいたい。 ・学校生活全般に安心感を感じることは大事であるが、入学前よりも安心して通学できていると感じている生徒がいることを評価したい。また、保護者も、入学前より我が子の様子を前向きに捉えている様子が伺える。学校全体に一人一人を受け入れようとする雰囲気があるのではないかと。 ・生徒一人一人の状況を把握することはとても大変だと思います。多方面の協力、支援のもと、安心できる学校、居場所が維持できることを望みます。			
学習	・多くの生徒が、授業に出るのが楽しみで、わかり易い授業が多く、授業内容を理解している。	B	「わかりやすい授業が多い」の生徒の回答が77%であるが、「多くの生徒が授業内容を理解している」の教職員の回答が60%であった。また、「授業に出るのが楽しみという科目がある」の生徒の回答が75%、「授業に出るのを楽しみにしている生徒が多い」の教職員の回答が57%であった。いずれの比較項目において生徒と教職員の認識の違いが大きい。 保護者の学習に関するニーズも「学び直し」から「高い学力」まで分散している傾向が昨年度同様に見られる。 基礎基本の定着を目指しながら、生徒の学習ニーズに対応した授業改善、ICTを活用した授業実践の研究と新教育課程に向けた学習評価の改善などに向けた取組を深めていきたい。	A	A
学校関係者評価者による意見		・学ぶ楽しさや大切さを実感できるのが大通高校の最大の魅力なので、「学び直し」か「高い学力」という二者択一に陥らないようお願いしたい。 ・生徒、保護者、教職員で認識の差があることへの分析をもう少し行う必要があるかもしれないが、「分かりやすい」「楽しい」と思える授業があると多くの生徒が回答している現状をもっと評価してもよいと思う。「学ぶ」ことが楽しいと思えることが一番だと思う。			
キャリア・進路指導	・生徒が色々な社会体験（ボランティア、職場体験等）をする機会を増やし、仕事や社会の仕組みについて学ぶ機会が多い。 ・「総合的な探究の時間」「キャリア探究」など、本校のキャリア教育の内容を理解している。 ・授業や学校行事で聞いた、進路についての話を参考にしている。	B	「目標に向かって挑戦し、主体的に自己の生き方や進路について探究し、豊かな人間関係を築ける生徒を育てる」という重点目標のもと、「総合的な探究の時間」「キャリア探究」において様々な取組を行っている。 コロナの影響で昨年度は実施できなかった取組が、今年度はインターシップをはじめ多くの学習活動を工夫しながら実施できたことにより、「授業や学校行事で聞いた進路について話を参考にする」の生徒の回答が71%と昨年度より上がっていると考えられる。 しかし「キャリア探究」等の学校設定科目を設置し、生徒のキャリア形成に資する取組をしているが、学校設定科目の積極的な履修は一部の生徒に限定されている。 本校のキャリア教育の内容と効果的な取組について、生徒のキャリア形成の視点から、生徒の意識づけを一層高め、生き方や進路についての自己の主体的な探究心をさらに高める方策を検討し取り組んでいきたいと考えている。	A	A
学校関係者評価者による意見		・コロナ禍において、将来に希望を持って生徒が卒業できるように、さらなる意識を持って取り組んでいただきたい。 ・就労を含む進路に関する情報は、生徒も保護者も気になる場所である。一方、ネットやメディアからも種々の情報が得られることから、学校ならではの取組や内容を考えていく必要があるのではないかと。			

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
多様な支援と外部連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校で気軽に先生方と関わることができる。また、スクールカウンセラーなど、外部の人たちと接する機会が多い。 保護者や外部の人々が、学校運営に参加する仕組みがある。 さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対する、サポート体制がある。また、教員間で、情報交換がおこなわれている。 	B	<p>例年はドーリ・ブレイスや外部講師を招いての多くの取組を行っているが、コロナ禍の影響がありながらも実施方法を工夫し行ってきた。「教員以外の外部の人たち接する機会が多い」の生徒が36%あり、昨年度より上がっている。今年度も取組に制約があり、その分が数値評価に反映されたものと分析している。</p> <p>「学校で気軽に先生と関わることができる」の生徒が74%、逆に26%が「できていない」と読み取れる。個別面談などガイダンス対応の在り方などを検討していきたい。</p> <p>「さまざまな困難や障がいを抱えた生徒に対するサポート体制がある」の保護者は72%であり、多様な生徒の本校の支援を理解していただいている方が多い。</p> <p>一方「保護者や外部の人たちが学校の運営に参加する仕組みがある」の保護者の回答が53%であり昨年比20%減となっている。本校での取組について、積極的に発信し、保護者の皆様に積極的に学校の取組についての協力をお願いしていきたい。</p>	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、生徒の安全確保とのバランスに配慮しながら引き続き進めていただきたい。 運営協議会での支援事業をはじめ、配慮を要する生徒たちを支える取組を引き続き行ってほしい。 コロナの影響でPTA活動の縮小が続く、懇談会等開催できず保護者同士の交流の場がほとんどありません。来校の機会が減ったことで、学校の取組に触れる仕組みを知ること、保護者が学校にかかわる機会が減ってしまったのかもしれない。今後良い働きかけができればと思います。 				
生徒指導・特別教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 先生以外のスタッフ（カウンセラーやボランティア等）と関わる機会を多く持っている。さらに充実させる。 困った時や悩み事があるときに、相談できる大人がいる。 生徒の人間的な成長を感じる。 	B	<p>「自分の周りには、困ったことや悩み事があるときに相談できる大人がいる」の生徒の回答が58%であるが、逆に42%の生徒がそう思わないと読み取れる。学校内での教育相談や支援体制を検討し、生徒の安心感を高めるための策を立て実践していきたい。</p> <p>「入学する前と比べて自分が人間的に成長できた」の生徒の回答が77%で昨年度比5%となっている。本校の学習や特別活動の取組と生徒の意識がマッチしている生徒が増えたものと分析している。</p> <p>生徒の学校生活の保護者の回答で「のびのびと自由な学校生活」「マナーや礼儀を身につけさせる機会」いずれも94%であった。</p> <p>本校に入学した生徒のさらなる人間的な成長につなげられるよう、学習活動や特別活動、キャリア教育等の場面でその視点を一層取り入れた教育活動を行っていきたい。</p>	A	A
学校関係者評価者による意見	<ul style="list-style-type: none"> SCやSSWの相談の手前で、いかに日常的な見守りの段階で先生方がアンテナを張れるかが重要なので、ヤングケアラーなど様々な社会課題について研鑽をお願いしたい。 学校生活を通して、生徒も保護者も成長を感じられることは素晴らしいと思う。多様なモノ・ヒト・コトとの出会いを今後も工夫してほしい。 親や先生以外の大人と関わる機会や、相談、支援体制は十分整っていると思います。相談できる大人がいると思わない生徒は、安心感を感じていないのか気になります。 				
大通高校として評価を受けて今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の達成状況をAとしている項目は、「必要な生徒が、必要な時に、必要な支援」に対応できるよう、学校生活の安心感を高めるための支援を検討し、新年度に実践できるよう教育計画に反映していきたいと考えている。 「学習」「多様な支援と外部連携」「生徒指導・特別教育活動」の自己評価の達成状況をBとした。実践内容によっては、生徒・保護者・教職員の受止めに違いが見られる。実践したことが生徒と教職員とでより充実感を共有できる取組になるよう、次年度に向けての教育活動の構築に取り組んでいきたい。 コロナ禍の影響がありながらも「大通高校のオリジナリティ」が発揮できるような取組を、「生徒の学びを止めない」という視点から工夫し、出来る限り通常に近い学校教育活動に取り組んできた。その取組の中で得られた工夫や改善点を次年度以降も生かし、より一層の教育活動の効果的な展開を検討していきたい。 また、一人一台端末やをはじめICTコンテンツを活用した効果的な教育活動に取り組むなど、本校の良さを発揮されるような教育活動の推進に努めたい。 				

<評価> A:よく達成されている B:ほぼ達成されているが改善も必要 C:不十分である